



取扱説明書

特定小電力トランシーバー

IC-4350 IC-4350L

この取扱説明書は、別売品のことも記載
していますので、お読みになったあとも
大切に保管してください。



IC-4350L

Icom Inc.

IC-4350

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた特定小電力トランシーバーです。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

付属品について

本製品には、下記のものを同梱しています。

◎ベルトクリップ(MB-127) 1

◎アタッチメント(※P54) 1

◎取扱説明書(本書)

◎保証書

※電池は付属していませんので、お客様で市販の単3形アルカリ乾電池、または別売品のBP-260(充電式電池)をご用意ください。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。



使用後はリサイクルへ

この製品は、充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

本製品の概要について

- ◎ IP67(耐塵形★¹・防浸形★²)の性能に対応できるよう設計されたプレストーク方式の特定小電力トランシーバーです。
- ◎ 単信、および半複信の通信方式★³に対応しています。
- ◎ 単信は20チャンネル、半複信は27チャンネルに対応しています。
- ◎ 別売品の中継装置(IC-RP4100)を使用することで、電波が直接届かない場所でも通話できます。
中継装置については、お買い上げの販売店にご相談ください。
- ◎ 本製品は、免許不要・資格不要です。
- ◎ IC-4350Lは、ロングアンテナを採用していますので、IC-4350より安定した通話ができます。(IC-4350L同士の場合)

- ★1. 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機の内部に粉塵の浸入がないこと。
- ★2. 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。
- ★3. 単信 : 無線機同士が直接通話する方式です。
送信と受信を交互に切り替えて通話します。
半複信 : 別売品の中継装置を経由して通話する方式です。
単信と同じように、送信と受信を交互に切り替えて通話します。

はじめに

防塵/防水性能について

外部スピーカー/マイクロホン接続端子のキャップを正しく取り付け付けた状態で、IP67の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手で、防水形スピーカーマイクを着脱したり、電池を交換したりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- 「別売品の使用による防塵/防水性能について」(Piv)に記載する別売品以外を使用したとき
- 無線機本体と電池端子間の腐食による故障、または損傷
- 使用温度範囲外で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体と別売品を接続するコネクター間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、真水で洗い流してください。

このとき、電池収納部のフタを必ず閉めて、外部スピーカー/マイクロホン接続端子のキャップを、必ず取り付けてください。



洗い流したあとは、水分をふき取り、十分に乾燥させてからご使用ください。

別売品の使用による防塵/防水性能について

防水形スピーカーマイクロホン(HM-183PI)を使用したときは、IPX7の防塵/防水性能に制限されます。

※HM-183PI以外の別売品(※8章)については、防塵/防水構造になっていませんので、ご注意ください。

取り扱い上のご注意

- ◎アンテナを持って、製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
- ◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手で、電池、防水形スピーカーマイクロホン、外部スピーカー/マイクロホン接続端子のキャップを付けたり、はずしたりしたりしないでください。
- ◎水や湯を水道の蛇口から直接当てないでください。
- ◎無線機本体、電池端子、充電器の充電端子(充電端子、および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがありますので、定期的にお手入れしてください。
- ◎磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◎本製品を電気自動車やハイブリッドカーなどでご使用になる場合、ハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

はじめに

電波法上のご注意

- ◎ 他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎ 使用できるのは、日本国内に限られています。

自動車運転時のご注意

- ◎ 安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎ 安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で自動車を運転しないでください。

取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

はじめに	i
付属品について	i
登録商標/著作権について	i
本製品の概要について	ii
防塵/防水性能について	iii
海水が付着したときは？	iii
別売品の使用による防塵/防水性能について	iv
取り扱い上のご注意	iv
電波法上のご注意	v
自動車運転時のご注意	v
取扱説明書の内容について	v
安全上のご注意(必ずお読みください)	1
 1 ご使用前のご注意と準備	 5
■ ベルトクリップのはずしかた	5
■ 電池の入れかた	6
■ 電池の残量表示について	7
■ 電池の残量警告アラームについて	7
 2 各部の名称と機能	 8
■ 前面部	8
■ 表示部	10

もくじ

3通話のしかた —————	12
1 電源を入れる……………	12
2 音量を調整する……………	12
3 相手局を選択する……………	13
4 呼び出しをする……………	14
5 呼び出しを受ける……………	14
6 通話する……………	15
■ 通話時のアドバイス ……………	15
1. 通話(送信)時間の制限について …	15
2. マイクロホンの使いかた ……………	15
3. 相手局から応答がないときは ……	16
4. 通話できる範囲について ……………	16
5. 相手局の声が聞こえにくいときは …	16
4グループトーンについて —————	17
■ グループトーン機能 ……………	17
5個別呼び出し機能による通話 —————	19
■ 呼び出しのかたの種類について ……………	19
■ 個別呼び出し機能を設定するには ……	21
■ 個別呼び出し機能で通話するには ……	24
■ アンサーバック機能 ……………	28

6その他の便利な機能	29
■ トーンバースト機能	29
■ ロック機能	29
■ 他局通話受信機能	29
■ 一時音量切り替え機能	30
■ VOX機能	30
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	31
7設定モードについて	34
■ 設定モードにするには	34
■ 詳細設定モードにするには	35
■ 設定項目一覧	36
■ 設定項目について	37
8別売品とその使いかた	52
■ 別売品についてのご注意	52
■ 別売品一覧表	52
■ 別売品を接続するには	54
■ 付属のアタッチメントについて	54
■ アタッチメントの取りはずし	55
■ HM-183PI (防水形スピーカーマイクロホン)	56
■ HM-186PI (小型スピーカーマイクロホン)	56
■ SP-16PIBW (耳かけ型イヤホン)	56
■ HM-186 (小型スピーカーマイクロホン)	57

もくじ

8 別売品とその使いかた(つづき)

■ HS-85(VOX機能付きヘッドセット)...	57
■ HS-94(イヤーフック型ヘッドセット)	58
■ HS-95(ネックアーム型ヘッドセット)	58
■ HS-97(咽喉マイクロホン)	58
■ HS-99(耳かけ式イヤホンマイク)	59
■ EH-15/EH-15B(イヤホン)	59
■ OPC-2132(2ピン変換ケーブル)	59
■ OPC-2133(1ピン変換ケーブル)	60
■ LC-177(キャリングケース)	60
■ 中継装置について	61
■ 充電器をご使用になる前に	62
■ 充電のしかた	64
■ 充電式電池の特性と寿命について	65
■ BC-200のヒューズについて	65
■ BC-200の定格について	65

9ご参考に————— 66

■ 初期化(リセット)操作について	66
■ 日常の保守と点検について	67
■ 故障かな?と思ったら	68
■ アフターサービスについて	69
■ 従来製品との相互使用について	70

さくいん————— 71

安全上のご注意(必ずお読みください)

安全にお使いいただくために、
ご使用の前に、必ずお読みください。

- ◎ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- ◎次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ◎お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

【免責事項について】

お客様または第三者が、取扱説明書記載の使用方法とは異なる使用方法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

△ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。

引火、火災、爆発の原因になります。



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎ 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。

交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。

運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

- ◎ 電子機器の近く（特に医療機器のある病院内）では絶対に使用しないでください。

電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

- ◎ 指定以外の充電式電池を使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

- ◎ 製品の分解や改造は、絶対にしないでください。

また、ご自分で修理しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

- ◎ アンテナを持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。

本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。

- ◎ 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。

大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

- ◎ 万が一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

すぐに電源を切り、電池を取りはずしてください。

煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにご連絡ください。

**注意**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎ インバーター内蔵の電子機器や自動車、LED照明器具の周辺で使用しないでください。

電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

- ◎ 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。

変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

- ◎ アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。

変形や破損の原因になることがあります。

- ◎ 指定以外の別売品を接続しないでください。

故障の原因になることがあります。

- ◎ 無線機をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。

- ◎ テレビやラジオの近くで送信しないでください。

電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

- ◎ 温度が、 -10°C ～ $+50^{\circ}\text{C}$ 以外の環境では使用しないでください。

故障の原因になることがあります。

- ◎ 製品を投げたり、落としたりして、強い衝撃を与えないでください。

けが、故障の原因になることがあります。

- ◎ 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。

故障の原因になることがあります。



注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎ 長期間ご使用にならない場合は、電池を取り出してください。
電池の液もれにより、故障の原因になることがあります。

■ ベルトクリップのはずしかた

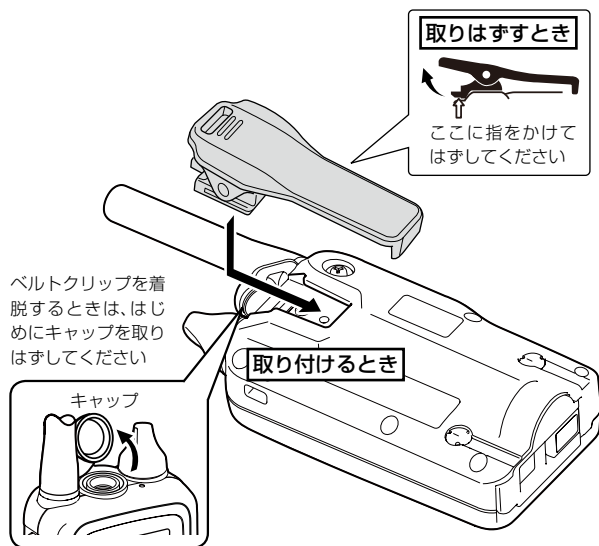
本製品は、ベルトクリップを装着した状態で出荷しています。

【取りはずしかた】

- ①キャップを取りはずします。
- ②図のように指をかけて、取りはずします。

【取り付けかた】

- ①キャップを取りはずします。
- ②図のように「カチッ」と音が鳴るまで差し込んでください。



1 ご使用前のご注意と準備

■ 電池の入れかた

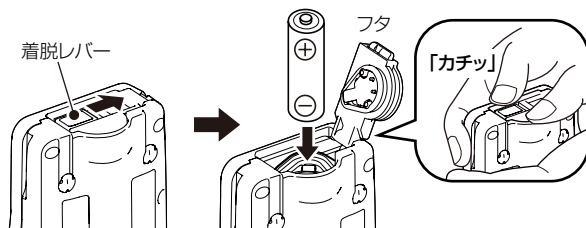
本体底面の着脱レバーを矢印の方向にスライドさせて、フタを開けます。

市販の単3形アルカリ乾電池(1本)、または別売品のBP-260(充電式電池)を下図のように入れます。

「カチッ」と音が鳴るまで、両手で確実にフタをしてください。

BP-260をはじめてお使いになる場合、必ず充電してください。

電池はマイナス側から挿入してください。



※間違えてプラス側から電池を挿入すると、無線機は動作しません。また、故障の原因になりますので、ご注意ください。

※運用時間(寿命)は、パワーセーブ機能動作時に送信1分/受信1分/待ち受け8分の時間比で使用した場合、アルカリ乾電池で約37時間★、BP-260で約32時間★です。

★運用時間は目安です。

使用条件や電池の種類(製造元など)により、使用時間が大きく異なることがあります。

[ご注意]

◎市販の単3形アルカリ乾電池、または別売品のBP-260(充電式電池)以外の電池を使用しないでください。

故障の原因になることがあります。

◎本製品は防水仕様のため、着脱レバーがかたくなっています。着脱レバーをスライドさせるときに、指や爪をいためることがないようにご注意ください。

■ 電池の残量表示について

表示部のは、アルカリ乾電池、および充電式電池（別売品）の残量に応じて変化します。

※電池の残量表示が点滅したら、アルカリ乾電池は新しいものと交換し（P6）、充電式電池（別売品）は、充電してください。
充電については、8章をご覧ください。

表 示	電 池 の 状 態
	十分に容量があります。
	電池が多少消耗していますが、運用できます。
	短時間であれば運用できます。
 (点滅)	すぐに使えなくなりますので、電池の交換、充電が必要です。

■ 電池の残量警告アラームについて

電池の残量表示がになると、警告アラームが「ピーピーピー」と、30秒ごとに鳴ります。

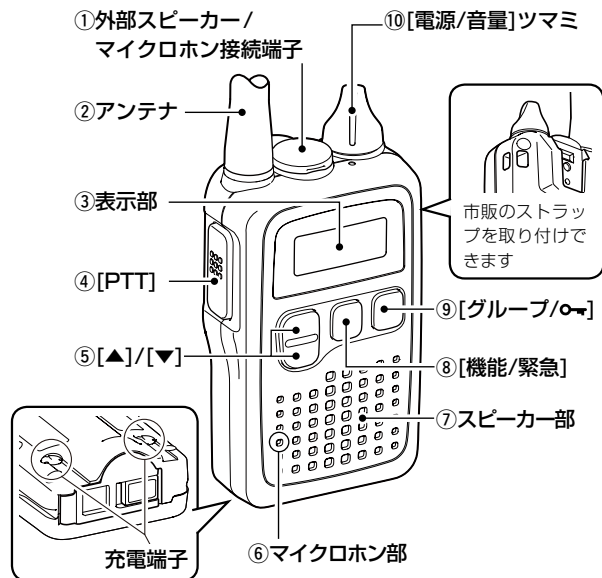
警告アラームが鳴り出したら、すぐに新しいアルカリ乾電池と交換してください。

また、充電式電池（別売品）の場合は、充電してください。

※の状態で使用をつづけると、警告アラームが「ピーピーピッピッ…」と鳴り、5秒後に無線機の電源が自動的に切れます。

2 各部の名称と機能

■ 前面部



①外部スピーカー/ マイクロホン接続端子

別売品のスピーカーマイクロホンやヘッドセットなどを接続する端子です。

キャップを取りはずして、接続します。(P54)

接続しないときは、キャップを取り付けてください。

②アンテナ

電波を発射、または受信する部分です。

電波法上、取りはずしできない構造になっています。

③表示部 (P10)

通話チャンネル番号、送信、受信などの運用状態を表示します。

④[PTT] (送信)スイッチ

(P14、P15)

押すと送信、はなすと受信に切り替わります。

送信するときは、[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話しかけます。

⑤[▲] (アップ) / [▼] (ダウン) スイッチ

通話チャンネル/グループを切り替えるスイッチです。

1回押すごとにチャンネル/グループがアップ/ダウンし、押しつづけると連続で切り替わります。(P13、P17)

⑥マイクロホン部 (P15)

小型のマイクロホンを内蔵しています。

別売品のスピーカーマイクロホンや、ヘッドセットなどを接続しても本製品の[PTT]スイッチを押すと、動作します。

⑦スピーカー部 (P14)

小型のスピーカーを内蔵しています。

別売品のスピーカーマイクロホンや、ヘッドセットなどを接続すると、動作しません。

⑧[機能/緊急]スイッチ

個別呼び出し機能がONのときは押すごとに、個別(またはグループ)、全体と表示が切り替わります。(P22)

個別呼び出し機能がOFFのときは押すごとに、[機能/緊急]スイッチの設定で割り当てた機能が動作します。(P51)
緊急呼び出しが設定されている場合は、長く押すと、緊急呼び出しをします。(P31)

⑨[グループ/○]スイッチ

短く押すと、グループ、チャンネル選択モードを切り替えます。(P17)

長く(約1秒)押すごとに、ロック機能をON/OFFします。

(P29)

⑩[電源/音量]ツマミ (P12)

電源の入/切と、音量を調整します。

2 各部の名称と機能

■ 表示部



①中継表示 (P13)

中継装置を使用して通話するチャンネルを選択したときに表示します。

※中継表示のチャンネルで通話するには、中継装置(別売品)が必要です。

②送信表示 (P14)

送信中に点灯します。

③ワンタッチPTT表示 (P37)

ワンタッチPTT機能がONのときに点灯します。

※送信中は、点滅します。

④呼び出し状況表示 (P12)

電源を入れる则表示します。個別呼び出し機能をONに設定している場合、呼び出し中や、着信中は点滅します。

⑤低出力表示 (P39)

送信出力を1mW(低出力)に設定時点灯します。

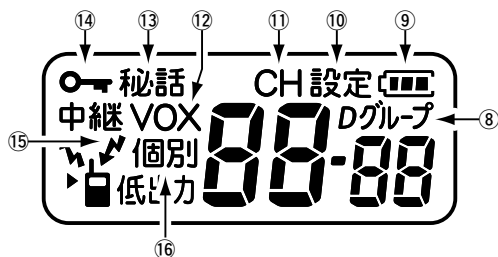
低出力の設定が有効になるのは、中継チャンネル(中継01～中継18)で通話する場合だけです。

⑥通話チャンネル表示 (P12)

通話チャンネル番号を表示します。

⑦グループ番号(連続トーン)表示 (P17)

グループ番号を表示します。



⑧「Dグループ」表示 (P17)

「グループ番号」(⑦)に、連続トーン(CTCSS)番号を表示しているときは「グループ」、連続デジタルコードスケッチ(CDCSS)番号を表示しているときは「Dグループ」を表示します。

※グループ番号編集時は、点滅します。

⑨電池残量表示 (P7)

電池の残量を4段階で表示します。

⑩設定表示

(P17、P18、P34、P35)

グループ設定、設定モード、詳細設定モード操作中に点灯します。

⑪CH表示 (P13)

通話チャンネルを設定できるときに点灯します。

⑫VOX表示 (P47)

VOX機能動作中に点灯します。

⑬秘話表示 (P39)

秘話機能動作中に点灯します。

⑭ロック表示 (P29)

ロック機能動作中に点灯します。

⑮受信表示 (P14)

受信中に点灯します。

⑯個別表示 (P19)

個別呼び出し機能動作中に点灯します。

3 通話のしかた

1 電源を入れる

[電源/音量]ツマミを時計方向に回します。

- 通話チャンネル番号(例:01)を表示します。

※「カチッ」と音が鳴り、表示部のバックライトが点灯(約5秒)します。

※[電源/音量]ツマミを反時計方向に「カチッ」と鳴るまで回すと、電源が切れます。



2 音量を調整する

受信中に、[電源/音量]ツマミを回して、聞きやすい音量に調整します。

[機能/緊急]スイッチにモニター機能を割り当てた場合、待ち受け中に音量調整するときは、[機能/緊急]スイッチを短く押し、「ザー」という雑音を聞きながら調整します。

※[機能/緊急]スイッチをもう一度短く押すと雑音が切れます。

※モニター機能については、[機能/緊急]スイッチの設定(※P51)で設定できます。



[機能/緊急]

3 相手局を選択する

- (1) 通話には通話チャンネルを使用します。
 通話チャンネル番号とは、通話する周波数のことです。
 通話する相手と同じ通話チャンネル番号を選択します。
 相手と通話チャンネル番号が異なるときは通話できません。
- (2) 相手局を選択するときは、下表を参考にしてください。

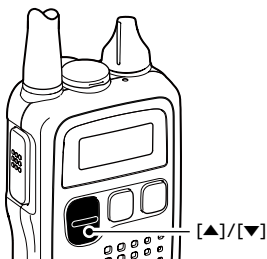
通信方式	チャンネル数	運用範囲
単信	20ch	ch01~20
半複信	27ch	中継01~中継27

(3) 選択のしかた

[▲]/[▼]スイッチを押して、
 通話チャンネル番号を選択し
 ます。

押すごとに、01~20→中継
 01~中継27→01の順に切り
 替わります。

※押しつづけると連続で切り
 替わります。



※「CH」が点灯しているとき
 は、通話チャンネルが
 選択できます。



チャンネル番号が変わる

※「中継」表示のチャンネル
 (半複信)で通話するとき
 は、中継装置(別売品)が
 必要です。



中継チャンネル選択時

3 通話のしかた

4 呼び出しをする

[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって、相手局を呼び出します。

手に持って運用するときは、マイクロホン部を指でふさがないようにご注意ください。

[PTT]スイッチを押し、表示部の送信表示「」が点灯したことを確認してからお話しください。

【通話チャンネルが単信の場合】

[PTT]スイッチを押すと、送信中は表示部の送信表示「」が点灯します。

【通話チャンネルが半複信の場合】

[PTT]スイッチを押すと、表示部の送信表示「」が一瞬点灯し、次に中継装置と接続されて(表示部の受信表示「」が1回点灯)、相手局を呼び出します。(送信表示「」が点灯)



5 呼び出しを受ける

[PTT] スwitchをはなした状態にして、相手局の電波を受信すると、表示部の受信表示「」が点灯して、相手の音声聞こえてきます。



6 通話する

送信と受信を交互に繰り返して、通話します。

- ◎双方が同時に送信すると、通話できません。
- ◎送信の終わりに『どうぞ』を付け加えると、会話がスムーズに運びます。



■ 通話時のアドバイス

1. 通話(送信)時間の制限について

送信出力を10mWに設定して通話される場合は、以下の点にご注意ください。

1回の通話時間は、「3分以内」と電波法で定められています。

1回の通話時間とは、2秒以上途切れることなく連続して通話した場合、送信、受信を合わせて3分間です。通話時間制限10秒前になると、ビープ音が「ピーッ」と鳴ります。1回の通話時間が3分になると、警告音が「プッ」と鳴って、自動的に送信を停止し受信待ち受け状態になります。

このとき、送信を停止してから2秒間は通話できません。2秒以上待ってから[PTT]スイッチを押すと、通話を再開できます。ただし、通話中に2秒以上通話が途切れた場合は、その時点から3分間通話できます。

2. マイクロホンの使いかた

マイクロホンに向かって話すときは、口元から5cmほどはなし、普通の大きさの声で通話してください。

マイクロホンを近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、めいりょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

3 通話のしかた

■ 通話時のアドバイス(つづき)

3. 相手局から応答がないときは

相手の無線機が電波を受信できない場所に移動したなどの理由で応答がないときは、再度[PTT]スイッチを押すと、送信できます。

4. 通話できる範囲について

電波の届く範囲は、周囲の状況(天候、建物や山のかげなど)により異なります。

下記の通信距離を目安に相手と通話してください。

見通しのよい場所：約2km

郊外：約1～2km

高速道路：約500m

市街地：約100～200m

※通話範囲であっても、建物のかげなどに入ると、通話しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

5. 相手局の声が聞こえにくいときは

[機能/緊急]スイッチの設定(※P51)で、モニター機能を割り当てたときに動作します。

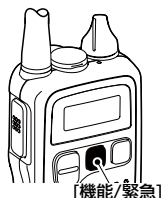
電波が弱くなることで、相手の声が途切れるなど聞こえにくいときは、[機能/緊急]スイッチを短く押してください。

モニター機能が動作して、音が途切れなくなります。

ただし、通信の状況により効果がない場合があります。

※モニター機能が動作しているときは、待ち受けのときでも受信表示「」が点灯して、「ザー」という雑音が出ます。

※[機能/緊急]スイッチをもう一度短く押すと雑音は切れます。



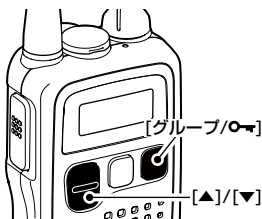
■ グループトーン機能

通話チャンネルとグループ番号が一致した局とだけ通信するための機能で、目的の信号を受信するまで静かに待ち受けることができます。

- ①[グループ/○▼]スイッチを短く押して、グループ番号設定モードにします。

※以前にグループ番号を設定している場合は、その番号を表示します。

※グループ番号が選択できるときは、「グループ」が点滅します。



- ②[▲]/[▼]スイッチを押して、グループ番号(下表参照)を選択します。

※押しつづけると連続で切り替わります。

※CTCSS選択時には「グループ」、CDCSS選択時には「Dグループ」が表示部に点灯します。



グループ番号設定モード



CTCSS選択時



CDCSS選択時

通信方式	チャンネル数	運用範囲	グループ番号(連続トーン)
単信	20ch	ch01~20	CTCSS:01~38 CDCSS:01~83 OFF : - -
半複信	27ch	中継01~27	CTCSS:01~38 OFF : - -

4 グループトーンについて

■ グループトーン機能(つづき)

- ③[グループ/📶]スイッチを短く押して、グループ番号設定モードを終了します。

※通話チャンネルと、設定したグループ番号表示になります。

※何も操作しない状態が5秒以上つづくと、手順①を操作する前の表示に戻ります。



グループ番号設定モード



通常モード

【グループ番号(連続トーン)による待ち受け】

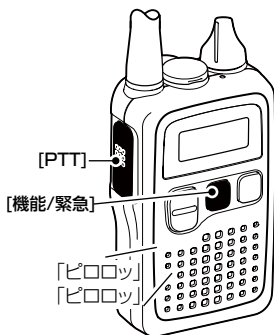
通話チャンネルにグループ番号が設定された状態で呼び出しを受けると、ポケットビープ(受信時の呼び出し音)が繰り返し鳴ります。

※詳細設定モードのポケットビープの設定(📖P49)で、ビープ音の設定が有効なときだけ鳴ります。

※表示部の受信表示「📶」が点灯しても、相手の音声聞こえてこないときは、他局への呼び出しを意味します。

[機能/緊急]スイッチを短く押すと、他局の通話が聞こえます。

解除するときは、もう一度[機能/緊急]スイッチを短く押しします。

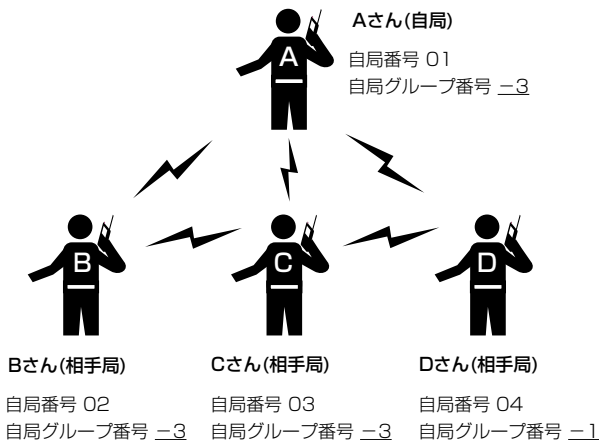


■ 呼び出しかたの種類について

個別呼び出し機能を使用した呼び出しかたの種類について、下図を例に説明します。

【使用例】

◎Aさんが、Aさんと同じ自局グループ番号のメンバー(BさんとCさん)に送信した場合
(A～Dの無線機は、通話チャンネルを05、グループ番号を01に設定)



5 個別呼び出し機能による通話

■ 呼び出しかたの種類について(つづき)

呼び出しかたには、次の3種類の方法があります。

◎全体呼び出し

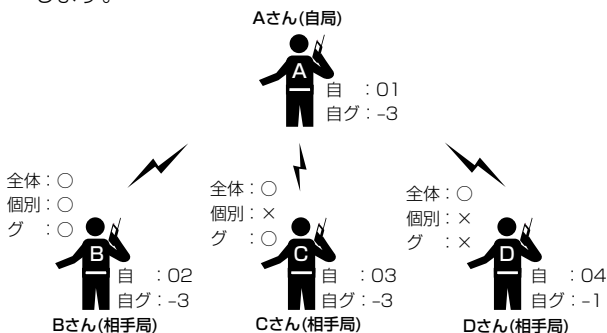
通話チャンネル(使用例：CH 05)とグループ番号(使用例：01)が同じ相手局(使用例：Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

◎個別呼び出し

通話チャンネル(使用例：CH 05)とグループ番号(使用例：01)が同じで、呼び出す相手局(使用例：Bさん)の自局番号(使用例：02)を指定して呼び出します。

◎グループ呼び出し

通話チャンネル(使用例：CH 05)とグループ番号(使用例：01)が同じで、自局グループ番号(使用例：-3)に所属するすべての相手(使用例：Bさん/Cさん)を呼び出します。

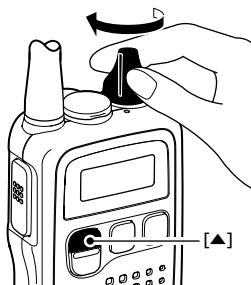


■ 個別呼び出し機能を設定するには

通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。

1 設定モードにする

- ① [電源/音量]ツマミを回して電源を切ります。
- ② [▲]スイッチを押しながら、[電源/音量]ツマミを回して電源を入れます。
- ③ ビープ音が「ピピピッ」と鳴って、「SEt1」が一瞬表示されたあと、設定モードに入ります。
（「設定」が点灯）
- ④ [グループ/📶]、または[機能/緊急]スイッチを押して、設定項目を選択します。
- ⑤ [▲]/[▼]スイッチを押して、設定内容を変更します。

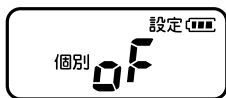
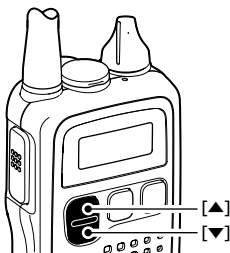


5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには(つづき)

2 「個別 on」を選択する

- ① [グループ/緊急]スイッチを繰り返し短く押して、「個別 of」(初期設定時)表示を選択します。
- ② [▲]/[▼]スイッチを押して、「個別 on」を選択します。



個別呼び出し機能OFF



個別呼び出し機能ON

※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例：Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。
次ページの手順(3、4)で記載する設定値は、19ページ【使用例】に記載の値を使用して説明しています。

3 自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号です。

- ① **[グループ/〇→]**、または**[機能/緊急]**スイッチを繰り返し短く押して、「個別on-01」(初期設定時)表示を選択します。
- ② **[▲]/[▼]**スイッチを押して、自局番号を設定します。
 - 選択範囲：00～99



自局番号表示
(例：Aさん)

【設定例】

個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例：Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

Aさん(自局) : 01 Bさん(相手局) : 02

Cさん(相手局) : 03 Dさん(相手局) : 04

5

4 自局グループ番号を選択する

- ① **[グループ/〇→]**、または**[機能/緊急]**スイッチを繰り返し短く押して、「個別on-1」(初期設定時)表示を選択します。
- ② **[▲]/[▼]**スイッチを押して、「自局グループ番号」を選択します。
 - 選択範囲：-0～-9



自局グループ番号表示
(例：Aさん)

- ③ 設定が終わったら、設定内容を反映するために、必ず**[グループ/〇→]**、または**[機能/緊急]**スイッチを押します。
- ④ **[電源/音量]**スイッチを回し、電源を入れなおすと設定した内容で動作します。

5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには

相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※ 個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(※P19～P23)されているものとして説明しています。

1

通話チャンネルを合わせる

- ① [▲]/[▼]スイッチを押して、チャンネル番号を選択します。
- ② [グループ/〇➡]スイッチを短く押して、グループ番号設定モードに入ります。
- ③ [▲]/[▼]スイッチを押して、グループ番号を選択します。



(例：Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)

※ 記載する設定値は、19ページ【使用例】に記載の値を使用し
て説明しています。

2

相手局番号を合わせる

▶全体を呼び出すときは

- ① [機能/緊急]スイッチを繰り返し短く押して、「個別AL」(全体)表示を選択します。



▶1局を呼び出すときは(個別呼び出し)

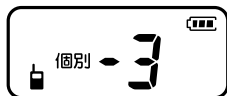
- ① [機能/緊急]スイッチを繰り返し短く押して、「個別(またはグループ)呼び出し」表示を選択します。
- ② [▲]/[▼]スイッチを押し、相手の自局番号(例：個別02)に合わせます。



5

▶グループを呼び出すときは

- ① [機能/緊急]スイッチを繰り返し短く押して、「個別(またはグループ)呼び出し」表示を選択します。
- ② [▲]/[▼]スイッチを押し、呼び出しをする相手のグループ番号(例：個別-3)に合わせます。



※ 記載する設定値は、19ページ【使用例】に記載の値を使用して説明しています。

5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには(つづき)

3 呼び出す

① 呼び出す相手の番号が選択されていることを確認します。

◎ 全体呼び出しをする場合

「AL」(全体)表示



◎ 個別呼び出しをする場合

「相手局番号」表示

(例：個別02)



◎ グループ呼び出しをする場合

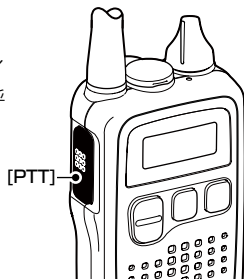
「グループ番号」表示

(例：個別-3)



※ 記載する設定値は、19ページ【使用例】に記載の値を使用して説明しています。

② [PTT]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。



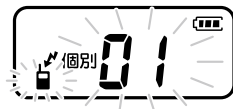
4 呼び出しを受ける

個別呼び出し機能が設定されているとき、呼び出しを受けたときは、下図の表示状態で[PTT]スイッチを押すと、応答できます。

- ◎全体呼び出しを受けたとき、またはグループ呼び出しを受けたとき
※ポケットビープによるお知らせはしません。



- ◎個別呼び出しを受けたとき
相手局番号と「」が点滅表示します。
※ポケットビープ機能が設定されているときは、設定されたビープ音が鳴ります。(P49)



(例：Aさんから呼び出しを受けた場合)

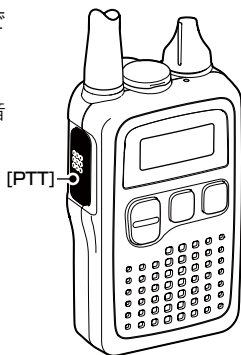
※ 記載する設定値は、19ページ【使用例】に記載の値を使用して説明しています。

5 個別呼び出し機能による通話

■ アンサーバック機能(個別呼び出し機能が「ON」のときのみ有効)

相手局が通話圏内にいるかどうかを確認できる機能です。
(P42)

- ① 確認するときは、待ち受け状態で
[PTT]スイッチを短く押します。
- ② 相手局が通話圏内の場合、ビープ音が「ピッ」と鳴ります。



■ トーンバースト機能

CTCSS（グループ01～グループ38）を設定しているチャンネル番号だけに有効な機能で、こちらが[PTT]スイッチをはなした直後、通話相手のスピーカーから一瞬出る、「ザッ」というノイズ（雑音）を抑えます。（※P50）

※送信する側が設定しないと受信側に反映しません。

※CDCSS（Dグループ01～Dグループ83）を設定しているチャンネル番号は、常にトーンバースト機能が有効です。

■ 他局通話受信機能

個別呼び出し機能による他局間同士の通話を受信したとき、その音声聞こえるようにするかしないかの設定です。（※P43）

■ ロック機能

チャンネル番号や、個別呼び出し設定などが不用意に変わることを防止する機能です。

[グループ/○]スイッチを長く（約1秒）押すごとに、ロック機能をON/OFFします。

- ON時は、表示部に「」が点灯します。
- ロック機能動作中でも、[PTT]スイッチ、[機能/緊急]スイッチによる緊急呼び出しと、モニター機能は操作できます。（※P51）



6 その他の便利な機能

■ 一時音量切り替え機能

[電源/音量]ツマミで設定した音量を基準として、音量を大きくするか、小さくするかを設定します。

音量を小さくして周りに配慮したいときや、大きくして聞き取りやすくしたいときに使用します。

※ 音量を最大にしていると、それ以上は大きくなりません。

※ ご利用になるには、設定モードの「一時音量切り替えの設定」を変更してください。(P38)

0.5秒以内に[PTT]スイッチを2回押します。

- ビープ音が「ピピッ」と鳴って、設定値に応じて音量が変わります。



終話すると、一時音量切り替え機能を解除して、操作前の音量に戻ります。

※ 終話する前でも、再度、同じ操作をすると一時音量切り替え機能を解除できます。

■ VOX機能

[PTT]スイッチを押さなくても、マイクロホンからの音声によって送受信を自動的に切り替える機能です。(P47)

※ HS-85、HS-94、HS-95、HS-97、HS-99、またはSP-16PIBWのいずれかの別売品と併せてお使いいただけます。

また、お使いになる別売品に応じて、設定モードの「VOX機能の設定」を適切に設定してください。

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、自局と同じチャンネル(CH)に設定された相手局に緊急信号を送出して、警告音で通知します。

※ 特別IDが一致する相手局を一斉に呼び出しできます。

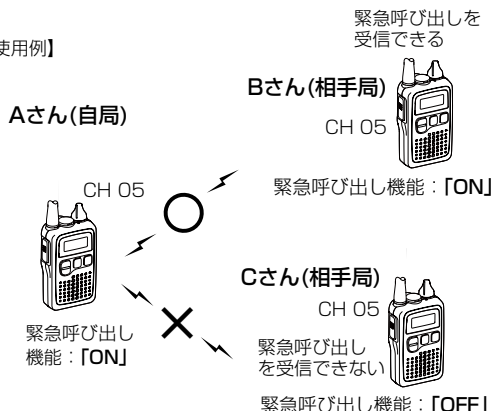
工場出荷時、すべての無線機に同じIDが設定されていますので、変更が必要な場合は、お買い上げの販売店に、ご依頼ください。

※ ご利用になるには、詳細設定モードの「緊急呼び出し機能の設定」を「on」に変更してください。(P43)

※ 通話する相手の局にも緊急呼び出し機能を設定してください。

※ チャンネル(CH)番号やグループ番号(CTCSS/CDCSS)の設定は、呼び出しをする前に確認してください。

【使用例】



6 その他の便利な機能

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)(つづき)

【緊急呼び出しのしかた】



- ① カウントダウン表示が「E」だけを表示するまで、**【機能/緊急】**スイッチを押しつつけます。

- カウントダウンは「E-02」→「E-01」→「E」(例)と表示されます。

- 警告音が「ピピピピ…」と鳴ります。

※ 緊急信号の呼び出しを開始すると、「 (送信)」を表示します。

- ② その状態で、相手局からの応答を待ちます。

- 応答があると、「 (受信)」を表示して、警告音が停止します。

- ③ 通話をします。

- 終話すると、緊急呼び出しを解除します。

【相手局から応答がないときは】

警告音が「ピピピピ…」と鳴りつづけます。

緊急呼び出しを中止する場合は、無線機の電源を入れなおしてください。

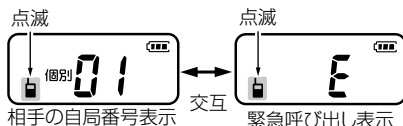
電源を入れなおすと、通常の操作ができます。



【緊急呼び出しを受けたときは】

- ① 警告音が「ピーポーピーポー…」と鳴ります。

また、「相手局番号」と「E」を交互に表示します。



- ② [PTT]スイッチを押して、応答します。

● 警告音が停止します。

- ③ 通話をつづけます。

● 終話すると、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。

【ご注意】

- ◎ 緊急呼び出し機能は、連続で大きな音量の警告音が鳴ります。本製品にヘッドセットやイヤホンを取り付けて、緊急呼び出し機能をONに設定する場合は、警告音の音量と【電源/音量】ツマミが連動するように設定されることをおすすめします。
- ◎ 下記のような環境や本製品の設定状況では、通知できなかったり、通知できても警告音が鳴らなかったりする場合があります。
 - 警告音の音量が【電源/音量】ツマミと連動して変化するように設定されている場合
 - 警告音を鳴らさない設定がされている場合
 - 動作中、電池の消耗により自動的に電源が切れた場合
 - 受信専用機能(☞P39)により送信を禁止している場合
 - 送信制限された場合(☞P15)
 - 電波状況の悪化により電波が届かない場合

※ 緊急呼び出し機能の詳細な設定については、お買い上げの販売店にご依頼ください。

7 設定モードについて

ご使用になる運用形態に応じて、各種機能を「設定モード」と「詳細設定モード」で設定できます。

■ 設定モードにするには

①[電源/音量]ツマミを回して電源を切ります。

②[▲]スイッチを押しながら、
[電源/音量]ツマミを回して電源を入れます。

③ピープ音が「ピピピッ」と鳴って、「SEt1」が一瞬表示されたあと、設定モードに入ります。

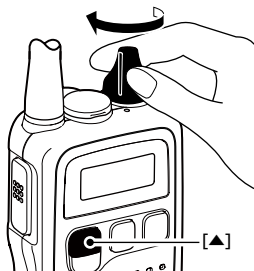
●「設定」が点灯します。

④[グループ/🔊]、または[機能/緊急]スイッチを押して、設定項目を選択します。

⑤[▲]/[▼]スイッチを押して、設定内容を変更します。

⑥設定が終わったら、設定内容を反映するために、必ず[グループ/🔊]、または[機能/緊急]スイッチを押してください。

⑦[電源/音量]ツマミを回して電源を入れなおすと設定した内容で動作します。



[ご参考]

◎上記⑦の操作以外に、設定終了後、[PTT]スイッチを押しても設定内容を反映して「設定モード」、または「詳細設定モード」を解除できます。

◎ロック機能設定時は、設定モード、詳細設定モードを表示しませんので、ロック機能を解除してください。(P29)

■ 詳細設定モードにするには

- ①[電源/音量]ツマミを回して電源を切ります。
- ②[▲]/[▼]スイッチを同時に押しながら、[電源/音量]ツマミを回して電源を入れます。
- ③ピープ音が「ピピピッ」と鳴って、「SEt2」が一瞬表示されたあと、詳細設定モードに入ります。

●「設定」が点灯します。

- ④[グループ/🔊]、または[機能/緊急]スイッチを押して、設定項目を選択します。
- ⑤[▲]/[▼]スイッチを押して、設定内容を変更します。
- ⑥設定が終わったら、設定内容を反映するために、必ず[グループ/🔊]、または[機能/緊急]スイッチを押してください。

- ⑦[電源/音量]ツマミを回して電源を入れなおすと設定した内容で動作します。



7 設定モードについて

■ 設定項目一覧

下記の表は、詳細設定モード時に設定できる項目です。

□は、設定モードでも設定できる項目です。

項目	表示	項目	表示
① ワンタッチPTT機能の設定 (P37)	Pl	⑪ 自局番号の設定 (P41)	On
② 内部マイク動作設定 (P38)	Is	⑫ 自局グループ番号の設定 (P41)	On
③ 一時音量切り替えの設定 (P38)	qL	⑬ アンサーバック機能の設定 (P42)	Ab
④ コンパンダ機能の設定 (P38)	Co	⑭ 他局通話受信の設定 (P43)	Cs
⑤ 秘話機能の設定 (P39)	SE	⑮ 緊急呼び出し機能の設定 (P43)	Ec
⑥ 送信出力の設定 (P39)	Po	⑯ スキャン機能の設定 (P44)	Sh
⑦ 受信専用機能の設定 (P39)	ro	⑰ スキャン再スタートの設定 (P46)	St
⑧ スケルチレベルの設定 (P40)	Sq	⑱ VOX機能の設定 (P47)	oc
⑨ マイク感度レベルの設定 (P40)	LE	⑲ VOX感度の設定 (P48)	ol
⑩ 個別呼び出し機能の設定 (P40)	of	⑳ VOXディレイタイムの設定 (P48)	de

項目	表示	項目	表示
②① 断線検出機能の設定 (P48)	CA	②⑥ パワーセーブ機能の設定 (P50)	PS
②② 電池種類の設定 (P49)	ty	②⑦ トーンバースト機能の設定 (P50)	tb
②③ チャンネルの設定 (P49)	Ch	②⑧ 外部電源出力の設定 (P51)	EO
②④ ポケットビープの設定 (P49)	Pb	②⑨ [機能 / 緊急] スイッチの設定 (P51)	Fc
②⑤ 操作時のビープ音の設定 (P49)	bP		

※⑱は、⑩と⑳を「oF」に設定すると表示します。

※⑲と㉑は、⑱を「In」、または「ot」に設定すると表示します。

※⑳と㉒は、⑩を「oF」に設定すると表示します。

※⑳は、⑱を「bu」、または「Et」に設定すると表示します。

※⑪～⑭は、⑩を「on」に設定すると表示します。

※㉓は、⑩と⑮を「oF」に設定すると表示します。

■ 設定項目について

□は、設定モード/詳細設定モードのどちらも設定できる項目です。

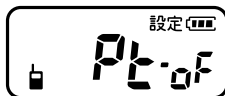
① ワンタッチPTT機能の設定 (出荷時の設定: oF)

[PTT]スイッチを押すごとに、送信と受信を切り替える機能です。

送信するときに、[PTT]スイッチを押しつづける必要がありません。

送信中は、「▶」が点滅します。

- oF: 使用しない
- on: 使用する(「▶」が点灯)



7 設定モードについて

■ 設定項目について(つづき)

② 内部マイク動作の設定(出荷時の設定: on)

使用するマイクを設定します。
別売品の外部マイクを使用する場合は、「oF」に設定してください。



- oF : 内部マイクを使用しない
- on : 内部マイクを使用する

③ 一時音量切り替えの設定(出荷時の設定: oF)

一時的に音量を切り替えたときの受信音量を設定します。

[電源/音量]ツマミで設定した音量を基準として、音量を大きくするか、小さくするかを設定します。



- oF : 一時音量切り替えを使用しない
- 選択範囲 : -3(小さくする)~3(大きくする)

④ コンパンダ機能の設定(出荷時の設定: oF)

音声通話のめいりょう度を上げる機能です。

設定して電源を入れると、表示部に「Co on」を約1秒表示してから、通常のチャンネルを表示します。

※通話するすべての無線機で同じ設定にしてください。



- oF: 使用しない
- on: 使用する

⑤ 秘話機能の設定(出荷時の設定: oF)

秘話機能を設定しない相手には、通話内容が雑音のように聞こえるため、他局に通話内容を盗聴されるのを防止できます。なお、グループトーン機能(※P17)と併用できます。



- oF: 使用しない
- on: 使用する(「秘話」が点灯)

※通話するすべての無線機で同じ設定にしてください。

※機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

⑥ 送信出力の設定(出荷時の設定: 10)

送信出力を調整する機能です。

- 10: 送信出力を10mWに設定する
- 1: 送信出力を1mW(低出力)に設定する(「低出力」が点灯)



※低出力は中継01～中継18チャンネルだけ設定できます。

⑦ 受信専用機能の設定(出荷時の設定: oF)

本製品を一時的に送信禁止にする機能です。

[PTT]スイッチを押すと、表示部に「onLy」を表示します。



- oF: 使用しない
- on: 使用する

7 設定モードについて

■ 設定項目について(つづき)

⑧ スケルチレベルの設定(出荷時の設定:2)

受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、スケルチレベルを設定します。

- 選択範囲：1(浅い)～5(深い)

※設定値が小さい(浅い)ときは弱い

信号でも受信できますが、設定値が大きい(深い)ときは強い信号だけを受信します。



⑨ マイク感度レベルの設定(出荷時の設定:3)

マイクホンの感度を設定します。

- 選択範囲：1(低い)～5(高い)

※周囲の雑音が多い場所では、「1」に設定し、大きめの声で通話する

ことで、通話相手に聞きやすい音声になります。

また、周囲の雑音が少ない場所では、「5」に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。



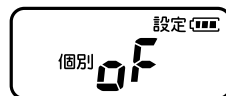
⑩ 個別呼び出し機能の設定(出荷時の設定:off)

同じチャンネルに設定された相手だけを個別に呼び出す機能です。

- off: 個別呼び出し機能を使用しない
- on: 個別呼び出し機能を使用する

※自局番号、自局グループ番号の設定は、次のページをご覧ください。

※他局通話受信機能の設定(☎P43)を「on」にすると、個別呼び出し番号が異なる他局間の通話が受信できます。



[ご注意]

⑪～⑭は、⑩(個別呼び出し機能の設定)が「on」のときだけ表示します。

⑪ 自局番号の設定(出荷時の設定:01)

ここで設定した番号で個別呼び出しを受けると着信します。

- 選択範囲:「00」～「99」



⑫ 自局グループ番号の設定(出荷時の設定:-1)

ここで設定したグループ番号で呼び出しを受けると、このグループ番号と同じ無線機が一斉に着信します。

- 選択範囲:「-0」～「-9」



7 設定モードについて

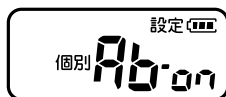
■ 設定項目について(つづき)

[ご注意]

⑪～⑭は、⑩(個別呼び出し機能の設定)が「on」のときだけ表示します。

⑬ アンサーバック機能の設定(出荷時の設定: on)

呼び出し相手が通話圏内にいるかどうかを確認する、アンサーバック機能を設定します。



- on: アンサーバック機能を使用する
- of: アンサーバック機能を使用しない

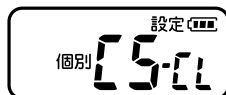
※受信専用機能の設定(☎P39)を「on」に設定した場合は、アンサーバック機能を「on」に設定していても個別呼び出しを受けるとき、アンサーバックを送信しません。

[ご注意]

⑪～⑭は、⑩(個別呼び出し機能の設定)が「on」のときだけ表示します。

⑭ 他局通話受信機能の設定
(出荷時の設定:CL)

他局宛での個別呼び出し受信時に、通話内容が聞こえるかどうかを設定します。



- on : 他局間通話や呼び出しが聞こえる
- oP : 個別呼び出しを使用しない他局間の通話や呼び出しは、聞こえる
個別呼び出しを使用する他局間の通話や呼び出しは、聞こえない
- CL : 自局宛の呼び出しを受信したときだけ、相手の音声聞こえる
- Pn : 自局宛に(個別/グループ/全体)呼び出しを受信するとブザーを鳴らす
※ 応答すると相手の音声聞こえる
- PF : 自局宛に(個別/グループ/全体)呼び出しを受信しても、ブザーを鳴らさない
※ 応答すると相手の音声聞こえる

⑮ 緊急呼び出し機能の設定(出荷時の設定:oF)

迅速な連絡が必要な場合、自局と同じチャンネル(CH)に設定された相手局に緊急信号を送出して、警告音で通知します。(P31)



- oF : 緊急呼び出し機能を使用しない
- on : 緊急呼び出し機能を使用する

7 設定モードについて

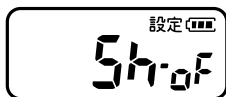
■ 設定項目について(つづき)

【ご注意】

①⑥と②⑨は、①⑩(個別呼び出し機能の設定)が「oF」のときだけ表示します。

①⑥ スキャン機能の設定(出荷時の設定: oF)

スキャン機能は、使用中のチャンネル、使用していないチャンネルを探すときに便利な機能です。



※ 「Et」は、グループトーン設定時で、チャンネルの設定(☞P49)が「20」に設定されている場合だけ使用できます。

「27」、または「47」に設定されている場合は、「oF」、または「bu」が選択できます。

※ スキャン機能を「oF」以外に設定すると、VOX機能は動作しません。(☞P47)

- oF：スキャン機能を使用しない
- bu：使用しているチャンネルを自動的に選択する
(ビジースキャン機能)
- Et：使用していないチャンネルを自動的に選択する
(空きチャンネルサーチ機能)

【ビジースキャンのしかた】

- **[▲]**キーを押しながら**[▼]**キーを押すとアップスキャンが開始します。
- **[▼]**キーを押しながら**[▲]**キーを押すとダウンスキャンが開始します。

【空きチャンネルサーチのしかた】

- 設定モードで**[Et]**設定後に**[PTT]**スイッチを押す、または電源を入れると、ビジースキャンが開始します。
- ビジースキャン中に、**[PTT]**スイッチを押しつづけると、空きチャンネルサーチを開始し、使用していないチャンネルで送信します。
- 終話すると、5秒後にビジースキャンを再開します。

【スキャン中の表示と解除のしかた】

- スキャン中は「-」表示が点滅します。
- スキャン中に**[▲]**、または**[▼]**キーを押すと、スキャンの方向を変更できます。
- スキャン中に**[グループ/〇➡]**キーを押すとスキャンを解除します。
「bu」設定時は、**[PTT]**スイッチを短く押しても、スキャンを解除します。
- ビジースキャン時、スキャン再開の条件は設定モードで設定します。(P46)

7 設定モードについて

■ 設定項目について(つづき)

[ご注意]

⑰は、⑰(スキャン機能の設定)を「bu」、または「Et」に設定すると表示します。

⑰ スキャン再スタートの設定(出荷時の設定：t5)

スキャン中に信号を受信すると、スキャンを一時停止します。ここでは、スキャンが一時停止してから、スキャンを再開するまでの時間を設定します。



- t5 : 信号を受信して5秒後に、スキャンを再開する
- P0 : 受信信号がなくなると、すぐにスキャンを再開する
- P5 : 受信信号がなくなってから5秒後に、スキャンを再開する

[ご注意]

⑱～㉔は、⑩（個別呼び出し機能の設定）と⑰（スキャン機能の設定）を「oF」に設定すると表示します。

⑱ VOX機能の設定（出荷時の設定：oF）

【PTT】スイッチを押さなくても、マイクロホンからの音声によって送受信を自動的に切り替える機能です。話すのをやめると受信に切り替わりません。



- oF：使用しない
- In：本体内蔵のマイクロホンでVOX機能を使用する（「VOX」が点灯）
- ot：別売品の外部マイクを使用する（「VOX」が点灯）
- ※ VOX機能を設定した場合、無線機本体に衝撃が加わると、送信する場合がありますが、故障ではありません。
- ※ VOX機能使用時、緊急呼び出しを受けて警告音が鳴っているあいだは、VOX機能で応答ができません。
- ※ VOX機能使用時は、マイク感度レベルを「3」に設定することをおすすめします。（P40）
- ※ 右表は、VOX機能が使用できる別売品です。
別売品によっては、VOX機能を使用するときの設定が異なりますので、該当する設定に変更してお使いください。
- ※ HS-94、HS-95、HS-97、HS-99は、「ot」に設定してご使用ください。

別売品名		設定
HS-85 ※HS-85内蔵のVOX 機能をご使用ください		oF
SP-16PIBW		In
HS-94 HS-97	HS-95 HS-99	ot

7 設定モードについて

■ 設定項目について(つづき)

⑪ VOX感度の設定(出荷時の設定:3)

感度を高く設定すると、小さな声で送信しますが、まわりの雑音でも送信しやすくなります。

感度を低く設定すると、周りの雑音では送信しにくくなりますが、送信するには大きな声で話す必要があります。

- 選択範囲: 1 (低い)～5 (高い)

※設定値は、接続する別売品によって変更してください。



⑫ VOXディレイタイムの設定(出荷時の設定:3)

VOX機能使用時に、送信状態から受信状態に切り替わるまでの復帰時間を設定します。

- 1:0.1 (秒)
- 2:0.2 (秒)
- 3:0.5 (秒)
- 4:1 (秒)
- 5:2 (秒)



⑬ 断線検出機能の設定(出荷時の設定:oF)

電源投入時に、別売品のイヤホンやスピーカーマイクホンホンのスピーカー部が断線していないかを確認する機能です。

断線と判断された場合は、電源を入れたときに、表示部にエラー表示「SPER」を約1秒表示してから、通常のチャンネルを表示します。

- oF: 使用しない
- on: 使用する



②② 電池種類の設定(出荷時の設定:AU)

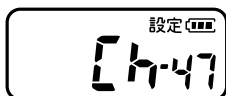
電池の種類(アルカリ乾電池、別売品のBP-260)を自動で判別、または手動で設定します。



- AU :電池の種類を自動で判断
- nl :BP-260 (充電式電池)で使用する
- AL :アルカリ乾電池で使用する

②③ チャンネルの設定(出荷時の設定:47)

使用するチャンネルの総数を設定します。



- 20:単信20chだけを使用する
- 27:半複信27chだけを使用する
- 47:単信20chと半複信27chの合計47chを使用する

②④ ポケットビープの設定(出荷時の設定:oF)

グループ番号の呼び出し、または個別呼び出しを受信したときの通知音のパターンを選択する項目です。



- oF :ビープ音を鳴らさない
- b1 :30回鳴る
- b2 :3回鳴る
- b3 :3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- b4 :3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る

②⑤ 操作時のビープ音の設定(出荷時の設定:on)

スイッチを押したときに操作音(ビープ音)を鳴らすか、鳴らさないかを設定します。



※操作したとき以外の警告音やベル音は、この設定に関係ありません。

- on:鳴る
- oF:鳴らない

7 設定モードについて

■ 設定項目について(つづき)

[ご注意]

②⑥は、⑩（個別呼び出し機能の設定）と⑮（緊急呼び出し機能の設定）を「oF」に設定すると表示します。

②⑥ パワーセーブ機能の設定(出荷時の設定: on)

何も操作しない(待ち受け)状態が5秒経過すると、自動的に本製品の動作を休止状態にし、電池の消耗を抑える機能を設定します。



※VOX機能設定時、パワーセーブ機能は無効です。(P47)

- on: 使用する
- oF: 使用しない

②⑦ トーンバースト機能の設定(出荷時の設定: on)

CTCSS（グループ01～グループ38）を設定しているチャンネル番号だけに有効な機能で、こちらが[PTT]スイッチをはなした直後、通話相手のスピーカーから一瞬出る、「ザッ」というノイズ(雑音)を抑えます。



※送信側の無線機に設定したとき、有効な機能です。

※CDCSS (Dグループ01～Dグループ83)を設定しているチャンネル番号は、常にトーンバースト機能が有効です。

- oF: 使用しない
- on: 使用する

②⑧ 外部電源出力の設定(出荷時の設定: oF)

外部に接続する別売品★が電源を必要とする場合は、「on」に設定します。

- oF : 使用しない
- on : 使用する(DC 3V)

★HS-85/HS-94/HS-95/HS-97/HS-99



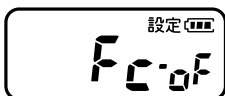
[ご注意]

①⑥と②⑨は、①⑩ (個別呼び出し機能の設定)が「oF」のときだけ表示します。

②⑨ [機能/緊急]スイッチの設定(出荷時の設定: oF)

[機能/緊急]スイッチを短く押したときの動作を変更できる機能です。

- oF : 使用しない
- 秘話 : 一時的に秘話機能を使用する(「秘話」が点灯)
- モニター : モニター機能を使用する(「M」が点灯)
- Sh : スキャン機能を使用する



※秘話機能を設定すると、他局に通話内容を盗聴されるのを防止できます。(P39)

※相手局の声が聞こえにくいときは、モニター機能を設定すると音が途切れにくくなります。(P16)

※スキャン機能を設定すると、チャンネルを自動で切り替えて通話できるチャンネルの検索や通話中のチャンネルを検索できます。(P44)

※「Sh」を設定して、スキャン機能を使用するときは、スキャン機能の設定(P44)で「oF」以外を設定してください。

8 別売品とその使いかた

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧表

★:IPX7の防塵/防水性能に制限されます。

バ ッ テ リ ー 関 係

BP-260 :充電式電池(ニッケル水素)

充 電 す る

BC-200 :連結型2口充電器
※電源には、別売品のBC-186が必要です。

BC-186 :ACアダプター (BC-200専用品)

腰 に 取 り 付 け る

MB-127 :ベルトクリップ(補修用)

無 線 機 を 保 護 す る

LC-177 :キャリングケース

スピーカーマイクロホン関係

HM-183PI★ :防水形スピーカーマイクロホン

HM-186PI :小型スピーカーマイクロホン

HM-186 :小型スピーカーマイクロホン

※OPC-2132と組み合わせて使用

マイクロホン/ヘッドセット関係

HM-177PI	: 小型イヤホンマイクロホン
HM-179PI	: イヤホンマイクロホン
HM-153	: イヤホンマイクロホン ※OPC-2132と組み合わせて使用
HS-85	: VOX機能付きヘッドセット ※OPC-2132と組み合わせて使用
HS-94	: イヤーフック型ヘッドセット ※OPC-2133と組み合わせて使用
HS-95	: ネックアーム型ヘッドセット ※OPC-2133と組み合わせて使用
HS-97	: 咽喉マイクロホン ※OPC-2133と組み合わせて使用
HS-99	: 耳かけ式イヤホンマイク ※OPC-2133と組み合わせて使用
OPC-2133	: 変換ケーブル(1ピン: $\phi 2.5\text{mm}$)
OPC-2132	: 変換ケーブル(2ピン: $\phi 2.5/\phi 3.5\text{mm}$)

イヤホン関係

EH-15	: イヤホン(プラグ: $\phi 2.5\text{mm}$) ※EH-15B (黒色) ※HM-179PIと組み合わせて使用 ※OPC-2133/OPC-2132との組み合わせでは、使用できません。
SP-16PIBW	: 耳かけ型イヤホン(プラグ: $\phi 3.5\text{mm}$)
SP-32	: チューブ式イヤホンアダプター ※EH-15、またはSP-16PIBWと組み合わせて使用

中継装置

IC-RP4100	: 中継装置(中継1ch ~ 27ch)
-----------	----------------------

8 別売品とその使いかた

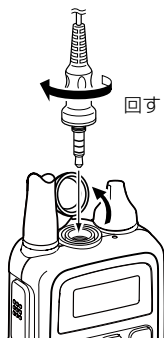
■ 別売品を接続するには

[ご注意]

必ず本製品の電源を切ってから接続してください。

- ①キャップを取りはずします。
- ②ねじ込み式プラグを差し込み、矢印の方向に回します。

※斜めになった状態でねじ込み式プラグを締めないようにご注意ください。

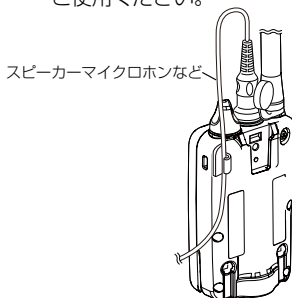


■ 付属のアタッチメントについて

別売品のスピーカーマイクロホンや変換ケーブルなどをご使用の場合は、ケーブルの引っ掛かり防止や、負担軽減のために下記の手順にしたがってアタッチメントを取り付けてお使いください。

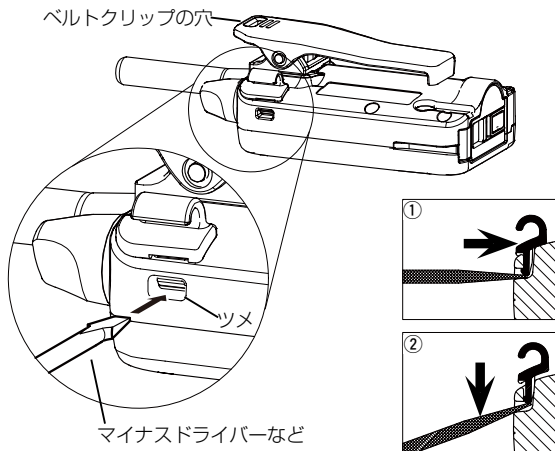
◎ アタッチメントの取り付けと使いかた

- ① アタッチメントを差し込みます。「カチッ」と音が鳴るまで確実に差し込んでください。
- ② ケーブルを下図のようにアタッチメントに引っ掛けてご使用ください。



■ アタッチメントの取りはずし

取りはずすときは、下図のようにマイナスドライバーなどでツメを押して取りはずしてください。

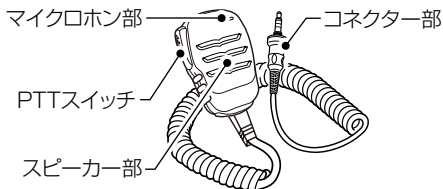


ハンドストラップは、ベルトクリップの穴に通してお使いください。

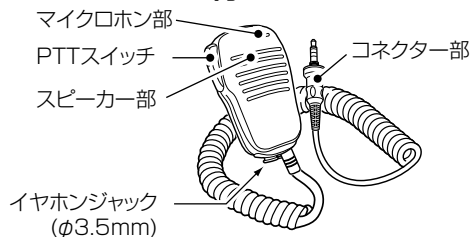
8 別売品とその使いかた

■ HM-183PI(防水形スピーカーマイクロホン)

IPX7の防塵/防水性能に制限されます。



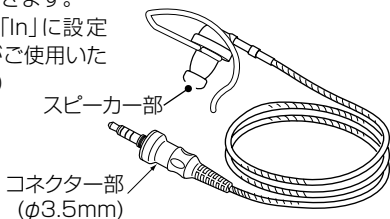
■ HM-186PI(小型スピーカーマイクロホン)



■ SP-16PIBW(耳かけ型イヤホン)

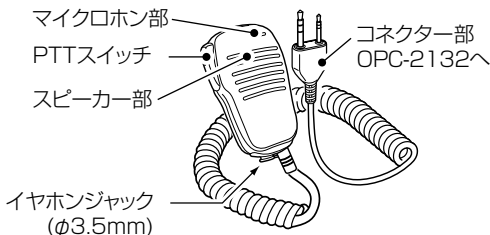
どちらの耳にも使用できます。

※VOX機能の設定を「In」に設定すると、VOX機能がご使用いただけます。(P47)



■ HM-186 (小型スピーカーマイクロホン)

OPC-2132と組み合わせてご使用になれます。

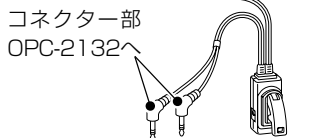


■ HS-85 (VOX機能付きヘッドセット)

OPC-2132と組み合わせてご使用になれます。

※外部電源出力の設定を「on」にしてください。(P51)

※HS-85は、VOX機能が内蔵されておりますので、無線機本体のVOX機能の設定を「oF」にしてください。(P47)



8 別売品とその使いかた

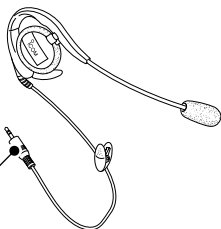
■ HS-94(イヤーフック型ヘッドセット)

OPC-2133と組み合わせてご使用になれます。

※外部電源出力の設定を「on」にしてください。(P51)

※VOX機能の設定を「ot」にしてください。(P47)

コネクター部
OPC-2133へ



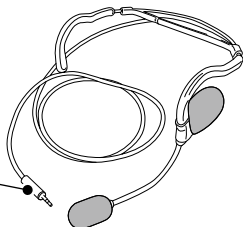
■ HS-95(ネックアーム型ヘッドセット)

OPC-2133と組み合わせてご使用になれます。

※外部電源出力の設定を「on」にしてください。(P51)

※VOX機能の設定を「ot」にしてください。(P47)

コネクター部
OPC-2133へ



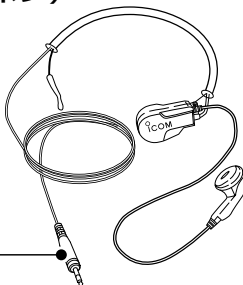
■ HS-97(咽喉マイクロホン)

OPC-2133と組み合わせてご使用になれます。

※外部電源出力の設定を「on」にしてください。(P51)

※VOX機能の設定を「ot」にしてください。(P47)

コネクター部
OPC-2133へ



■ HS-99(耳かけ式イヤホンマイク)

OPC-2133と組み合わせてご使用になれます。

※外部電源出力の設定を「on」にしてください。(P51)

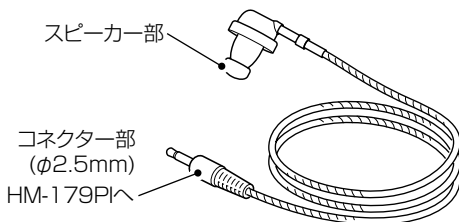
※VOX機能の設定を「ot」にしてください。(P47)



■ EH-15/EH-15B (イヤホン)

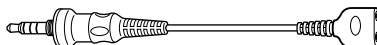
HM-179PIと組み合わせてご使用になれます。

※OPC-2133/OPC-2132とは、組み合わせてご使用できません。



■ OPC-2132 (2ピン変換ケーブル)

本製品に変換ケーブルを接続することで、別売品のHM-153/HS-85/HM-186を使用できます。



8 別売品とその使いかた

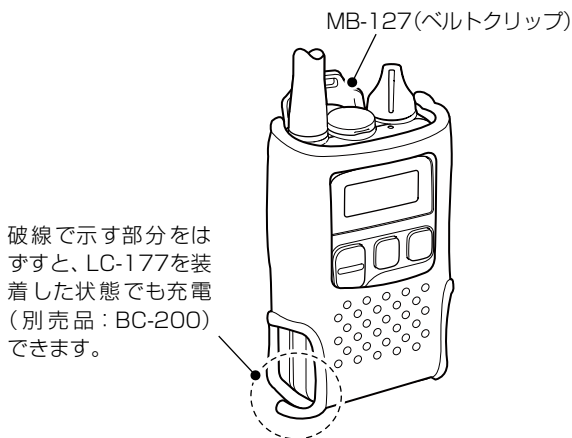
■ OPC-2133(1ピン変換ケーブル)

本製品に変換ケーブルを接続することで、別売品のHS-94/HS-95/HS-97/HS-99を使用できます。



■ LC-177(キャリングケース)

MB-127(ベルトクリップ)を組み合わせてご使用になれます。



[ご注意]

LC-177装着時にベルトクリップをはずすと、LC-177が引っぱられていたみやすくなりますのでご注意ください。

■ 中継装置について

工場やビルの中などで、障害物によって電波が直接届かない場所では、中継装置を設置することで、本製品同士が通話できます。

通話のしかたは、12ページ～16ページの説明と同じです。

※中継装置を使用して通話するときは、中継装置1台だけです。

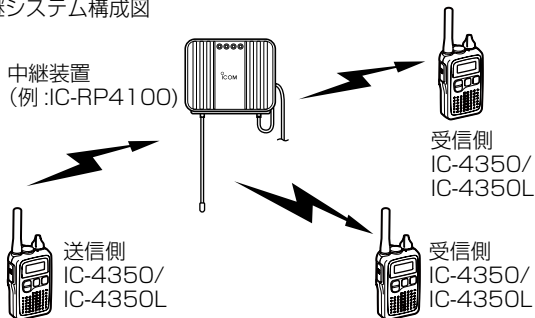
2台以上の中継装置を経由して通信距離を伸ばすことはできません。

※中継装置の設定は、中継チャンネル以外の項目を出荷時の状態にしてご使用ください。

中継装置に付属する取扱説明書を参考に設定してください。

IC-RP4100、IC-MS5010とIC-4188Dは中継1ch～中継27chの通話チャンネルで使用できます。

中継システム構成図



■ 充電器をご使用になる前に

【正しい充電のために】

**充電するときは、必ず本製品の電源を切ってください。
電源を切らないと、充電が完了しない場合があります。**

- ◎BP-260(充電式電池)、およびBC-200(充電器)は、ご使用の前に「安全上のご注意」を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。
- ◎BP-260を満充電した直後に再充電しないでください。
電池の性能や寿命を低下させることがあります。
- ◎BP-260は本製品に挿入して、弊社指定の充電器(BC-200)で充電してください。
※BP-260以外の電池をBC-200で充電しないでください。
- ◎BP-260、BC-200を本製品以外の目的に使用しないでください。
- ◎BC-200を使用するときは、BC-186以外のACアダプターを使用しないでください。

【充電時期について】

- ◎お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは必ず充電してください。
- ◎充電時、ランプが点灯しない場合は使用を中止し、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

【交換時期について】

指定時間充電しても、数分後に表示部の残量表示が変化する(使用時間が極端に短い)ときは交換時期です。

【温度・保管について】

◎極端に高温、または低温の環境下や、BP-260(充電式電池)とBC-200(充電器)の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。

0℃～40℃の環境で充電してください。

◎満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、BP-260の寿命が短くなるおそれがあります。

◎無線機を長時間使用しないときは、電池を取りはずし、-20℃～+30℃の湿気の少ない場所に、電池を保管してください。

BP-260を保管する場合は、電極が通電するものに直接触れないように、ビニール袋などに個別に入れて保管してください。(詳しくはBP-260に付属の取扱説明書をご覧ください)

◎充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、定期的にお手入れしてください。

【充電器のランプと充電時間について】

名称	BC-200
充電器の種類	連結型2口充電器
充電中	橙色にランプ点灯
充電完了	緑色にランプ点灯
充電時間	約10時間★

★BP-260の状態により異なります。

8 別売品とその使いかた

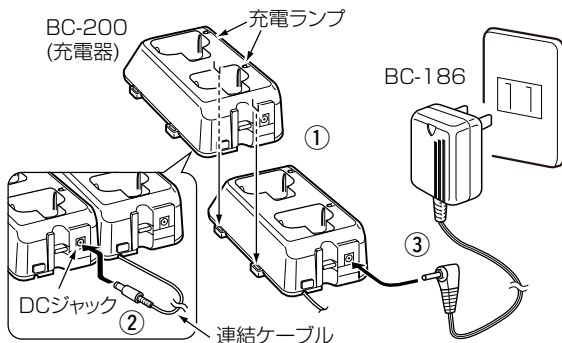
■ 充電のしかた

[ご注意]

- ◎ 必ず本製品の電源を切って充電してください。
- ◎ 充電しないときや充電完了後は、安全のためACアダプターをACコンセントから抜いてください。

充電器を最大5台まで連結して、同時に充電できます。

- ① 下図のように側面2カ所を連結します。
 - ② BC-200(充電器)底面に付いている連結ケーブルを取り出し、もう一方のBC-200のDCジャックに奥まで差し込みます。
 - ③ BC-186(ACアダプター)の出力プラグをBC-200に接続し、アダプターをACコンセントに接続します。
- ※BC-200にはBC-186を付属していませんので、別途お買い求めください。



⚠ 警告

BC-200を連結して充電できるのは、最大5台までです。
6台以上の台数を連結して充電しないでください。
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

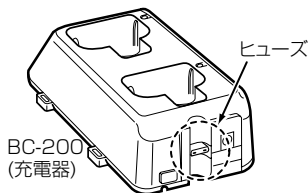
- ④ BP-260を本製品に挿入して充電器に差し込みます。
充電中は充電ランプが橙色に点灯し、充電が完了すると緑色に点灯します。

■ 充電式電池の特性と寿命について

- ◎ 充電式電池は、消耗品です。
充電できる回数は、300回～500回が目安です。
- ◎ 使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。
- ◎ 劣化がはじまると、満充電しても運用時間が短くなります。
- ◎ 満充電しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。
無線機の性能を十分活用するためにも5年を目処に交換されることをおすすめします。

■ BC-200のヒューズについて

BC-200には、下図の場所にヒューズがあります。
ヒューズの容量:2A/32V



■ BC-200の定格について

- ◎ 名 称: BC-200 連結型2口充電器
- ◎ 定格入力電圧: 6V DC (マイナス接地)
- ◎ 使用温度範囲: 0～40℃
- ◎ 重 量: 約184g
- ◎ 寸 法: 88(W)×51.7(H)×154.5(D) mm
(突起物を除く)

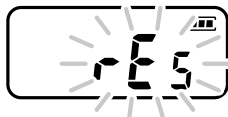
※ 定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

9 ご参考に

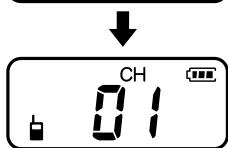
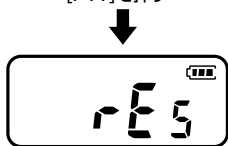
■ 初期化(リセット)操作について

68ページの処置をしても異常があるときや、本製品で変更できるすべての設定を工場出荷時の状態に戻したいときは、下記の初期化操作をしてください。

- ①[電源/音量]ツマミを回して電源を切ります。
- ②[▼]スイッチを押しながら、[電源/音量]ツマミを回して電源を入れます。
- ③ビープ音が「ピッ」と鳴って、「rEs」が点滅すると、[PTT]スイッチを押します。
- ④ビープ音が「ピピッ」と鳴って、「rEs」が点滅から点灯に変わり、CH01の画面になります。



[PTT]を押す



※ロック(ロック表示点灯)しているときは、初期化操作できません。

いったんロック機能を解除(☞P29)してから初期化操作をしてください。

※設定モードの初期値は、37ページ～51ページを参照してください。

■ 日常の保守と点検について

- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎ 無線機本体、電池端子、充電器の充電端子(充電端子、および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、電源が入らないことや正常に充電できないことがありますので、定期的にお手入れしてください。
※お手入れの際は、乾いたやわらかい布をお使いください。
※ACアダプターをコンセントから取りはずして、お手入れしてください。
- ◎ 使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示(🔋P7)を確認してください。
また、無線機本体に電池が正しく装着されていることを確認(🔋P6)してください。
- ◎ 定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。

9 ご参考に

■ 故障かな？と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

現 象	原 因	処 置	参照
電源が入らない	電池極性の間違い	極性を確認して入れなおす	P6
	接触不良	電池の電極、本体の接触端子を清掃する	P67
	電池の消耗	アルカリ乾電池を交換するか、BP-260を充電する	P7
通話チャンネル、またはグループ番号(連続トーン)が切り替わらない	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P29
通話できない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P16
	相手局が不在または電源を切っている	相手の無線機の状態を確認する	—
送 信 で き ない (ピープ音が「ブッブ」）と鳴る)	3分間の時間制限を過ぎている	2秒～3秒後、もう一度送信する	P15
	同じチャンネルの電波を受信している	受信表示「  」が点灯中は、送信できないため、受信表示「  」が消えたことを確認して送信するか、通話チャンネル番号を変更してから送信する	P13、 P14
呼び出しても応答がない	相手と通話チャンネル、またはグループ番号(連続トーン)が一致していない	設定を合わせる。 ※設定が合っていれば、相手が不在か電源を切っている	P13、 P17
VOX機能による送信ができない	VOX感度が低い値になっている	VOX感度を最適値に設定する	P47
	マイク感度が、低い値になっている	マイク感度を最適値に設定する	P40
中継表示が消えて中継装置が使えなくなった(半複信)	中継チャンネル以外のチャンネルを設定している	中継チャンネルを設定する	P13

■ アフターサービスについて

『故障かな?と思ったら』(P68)にしたがって、もう一度調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより、機能を維持できる製品については、ご希望により、有償で修理させていただきます。

●保証書について

保証書は、販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313 (フリーダイヤル)

◆携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)

受付 (平日 9:00~17:00)

電子メール: support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ: <http://www.icom.co.jp/>

弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

9 ご参考に

■ 従来製品との相互使用について

従来製品と相互に使用するときは、下表をご覧ください。

※秘話機能(☎P39)は、IC-4300、IC-4300L、IC-4500、IC-4077S、IC-4810、IC-4188D、IC-MS5010と互換性があります。

※本製品の個別呼び出し機能(☎P20、P40)がONの場合は、下表の機種(IC-4500、IC-4077S、IC-4810、IC-MS5010を除く)とは通話できません。

※緊急呼び出し機能(☎P31)は、IC-4077S、IC-4500、IC-4810、IC-MS5010と互換性があります。

■ 通話可能範囲

機種名 \ ch 数	通話チャンネル			通話チャンネル (中継用)		
	1	11	20	中継 1	中継 18	中継 27
IC-4350						
IC-4350L						
IC-4300						
IC-4300L						
IC-4077S						
IC-4500						
IC-4810						
IC-RP4100						
IC-MS5010						
IC-4188D						
IC-4110						
IC-4110D						

数字

1局を呼び出す	25
---------------	----

アルファベット

BC-200の定格について	65
BC-200のヒューズについて	65
VOX感度の設定	48
VOX機能	30
VOX機能の設定	47
VOXディレイタイムの設定	48

あ か

相手局から応答がないときは	16
相手局の声が聞こえにくいときは	16
相手局番号を合わせる	25
相手局を選択する	13
アタッチメントの取りはずし	55
アフターサービスについて	69
アンサーバック機能	28
アンサーバック機能の設定	42
一時音量切り替え機能	30
一時音量切り替えの設定	38
音量を調整する	12
外部電源出力の設定	51
[機能/緊急]スイッチの設定	51
緊急呼び出し機能	31, 43
緊急呼び出しを受けたときは	33
グループトーン機能	17
グループ呼び出し	20, 26
グループを呼び出す	25
故障かな?と思ったら	68
「個別 on」を選択する	22
個別呼び出し	20, 26
個別呼び出し機能で通話するには	24
個別呼び出し機能の設定	40

あ か (つづき)

個別呼び出し機能を設定するには	21
個別呼び出しを受けたとき	27
コンパンド機能の設定	38

さ た

自局グループ番号の設定	41
自局番号	23, 41
充電器をご使用になる前に	62
充電式電池の特性と寿命について	65
充電のしかた	64
従来製品との相互使用について	70
受信専用機能の設定	39
詳細設定モードにするには	35
初期化(リセット)操作について	66
スキャン機能の設定	44
スキャン再スタートの設定	46
スケルチレベルの設定	40
設定項目一覧	36
設定モードにするには	34
全局呼び出し	20, 26
全局呼び出しを受けたとき	27
前面部	8
操作時のビープ音の設定	49
送信出力の設定	39
他局通話受信機能	29, 43
断線検出機能の設定	48
チャンネルの設定	49
中継装置について	61
通話時のアドバイス	15
通話する	15
通話チャンネルを合わせる	24
通話できる範囲について	16
通話のしかた	12

さ た (つづき)

電源を入れる	12
電池種類の設定	49
電池の入れかた	6
電池の残量警告アラームについて	7
電池の残量表示について	7
トーンバースト機能	29, 50

な は

内部マイク動作の設定	38
日常の保守と点検について	67
パワーセーブ機能の設定	50
表示部	10
秘話機能の設定	39
付属のアタッチメントについて	54
別売品一覧表	52
別売品を接続するには	54
ベルトクリップのはずしかた	5
ポケットビープの設定	49

ま や ら わ

マイク感度レベルの設定	40
マイクロホンの使いかた	15
モニター機能	51
呼び出しかたの種類について	19
呼び出しを受ける/呼び出しをする	14
呼び出しをする	14
ロック機能	29
ワンタッチPTT機能の設定	37

高品質がテーマです。

A-7164D-1J- ①
Printed in Japan
© 2014 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と
植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32